

アジア仏教美術論集 【全12巻】

監修 宮治 昭・肥田路美・板倉聖哲

本体予価各 5,800 円＋税

A5 判上製カバー装 各巻平均 600 頁

**第一線の研究者らによるアジアの仏教美術研究の現在の到達点と
将来の課題を見通す待望のシリーズ、堂々の刊行！**

本シリーズは、彫刻・絵画・工芸・建築などを含めた仏教美術が、アジア各地域・各時代においてどのような様相や特色を見せ、そこにいかなる問題が存在しているかを示すべく、地域・時代別に全12巻で構成する。様式論や図像学、年代論といった基礎的なアプローチはもとより、思想や信仰、社会や政治など、様々な分野と関わって生成、発展した様相を明かにすることを目指している。造形から何が読み解けるかという視点をもって、仏教学・考古学・歴史学・宗教学等と関連させながら、多様で豊潤なアジアの仏教美術に新たな光を当てていく。

各巻の論文は、国内の研究者のみならず、広く各国の第一線の研究者に執筆を依頼する。そこに見られる方法論の相違はまた、それぞれの国における研究の伝統と動向を映し出すものとなる。

本シリーズが、アジアの仏教美術に関する研究の現在の到達点を明らかにし、将来の可能性を拓く第一歩となれば幸いである。

(『アジア仏教美術論集』刊行にあたって』より抜粋)

第10回配本 (2021年3月)

南アジアⅡ (ポスト・グプタ朝～パーラ朝)

責任編集 立川武蔵・森 雅秀

本体価格 5,800 円＋税

A5 判上製カバー装 本文 656 頁 ISBN 978-4-8055-1126-8 C3370



中央公論美術出版

お取り扱いは

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1
IVYビル 6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798

成熟と衰退、そしてアジア全域へ――

中世以降のインド仏教美術の全体像を、ヒンドゥー教やジャイナ教など他の宗教美術や信仰、儀礼、歴史といった隣接分野、さらにはアジア全域を視野に入れて論じる 20 篇。

『アジア仏教美術論集』刊行にあたって

総論 パーラ朝の仏教美術概観
総論 ネパール仏教のパンテオン
――カトマンドゥ盆地におけるネパール大乘仏教――

I パーラ朝の美術研究の最前線

山に住する慈悲の仏
――パーラ朝の観音像――

オリッサ州ソールンプル出土の釈迦八相図

東インドの九世紀から一二世紀の彫刻に見られる奇進者像

II 信仰と実践

インド後期仏教石窟と中期密教――『大日教』と胎藏曼荼羅の成立――

空海の舍利信仰と南伝仏教

三界六道の曼荼羅

――金剛杵をもつヤクシヤからターカールナヴァア・ヘルカへ――

III パーラ朝美術のアジア的展開

ベンガルの芸術の遺産

――国内と国外の両者について――

チベットにおけるポードガヤへの敬慕

東アジア及び東南アジアにおける力と鎮護の
仏教的イメージと、インド東部におけるその対応例

インド、ウー・ツァン、敦煌におけるパーラ中央アジア芸術様式

IV ヒンドゥー教とジャイナ教

マハスタンあるいは王都ブンドラナガラ

――東北インドの交差路にあったパーラ朝の古都――

仏教とヒンドゥー教のタントリズムにおける

女神マハーチーナクラマターラーまたはウグラターラー

ジャイナ教の美術

V 南インドとスリランカ

チョーラ朝時代の仏教美術

スリランカの上座部仏教とタイ・スコタイ王朝序論

VI ネパール

儀礼の場における美術

――ネパール仏教のチャクラサンヴァラ――

カトマンドゥ盆地における文殊の信仰と図像

ネパール絵画における仏伝図の図像学的考察

――仏塔図に描かれる仏伝諸場面を中心に――

森 雅秀
立川武蔵

スーザン・L・ハンチントン
(森 雅秀 訳)

森 雅秀

ロブ・リンロート (森 雅秀 訳)

定金計次

内藤 栄

杉木恒彦

スーザン・L・ハンチントン
(森 雅秀 訳)

ジェーン・ケイシー・シンガー
(伊藤 梢 訳)

クラウディン・パウツェル・ビクロン
(森 雅秀 訳)

張 亜莎 (日高知恵実 訳)

ヴィンセント・ルフエーブル
(鈴木彩可 訳)

グドウルン・ビューネマン
(森 雅秀 訳)

プラタパディトヤ・バル
(森 雅秀・星 晃代 訳)

袋井由布子

小泉恵英

ダイナ・バンドル
(大羽恵美 訳)

山口しのぶ

鈴木彩可

あとがき／執筆者・翻訳者一覧

2017年1月よりシリーズ刊行開始！

全12巻 (年2回配本)

既刊

近刊

	責任編集
中央アジア I (ガンダーラ～東西トルキスタン)	宮治 昭
中央アジア II (チベット)	森 雅秀
南アジア I (マウリア朝～グプタ朝)	宮治 昭・福山泰子
南アジア II (ポスト・グプタ朝～パーラ朝)	立川武蔵・森 雅秀
東アジア I (後漢・三国・南北朝)	濱田瑞美
東アジア II (隋・唐)	肥田路美

	責任編集
東アジア III (五代・北宋・遼・西夏)	板倉聖哲・塚本磨充
東アジア IV (南宋・大理・金)	板倉聖哲
東アジア V (元・明・清)	宮崎法子・森 雅秀
東アジア VI (朝鮮半島)	井手誠之輔・朴 亨國
東アジア VII (アジアの中の日本)	宮治 昭・肥田路美・板倉聖哲
東南アジア	肥塚 隆